

土砂災害 大雨、地震での地盤のゆるみに注意！

まんのう町の急峻な山々に囲まれた地域では風水害や地震による土砂災害のおそれがあります。近年の土砂災害の状況を踏まえ、国では平成26年11月に「土砂災害防止法」を改正し、国民の生命および身体を守るため、土砂災害のおそれのある区域を明らかにした上で、警戒避難体制の整備などの対策を推進しています。近年の気象状況を踏まえ、土砂災害についての理解を深め、発生に備えてスムーズな避難を行うことが防災・減災につながります。

山間部



山崩れに注意が必要です。山崩れは集中豪雨だけでなく地震によっても発生します

急傾斜地



がけ崩れに注意が必要です。がけ崩れは、豪雨や地震などによって突然発生します

扇状地



山間部の集中豪雨に注意が必要です。豪雨によって山崩れが起きると、土石流の危険があります

河川周辺



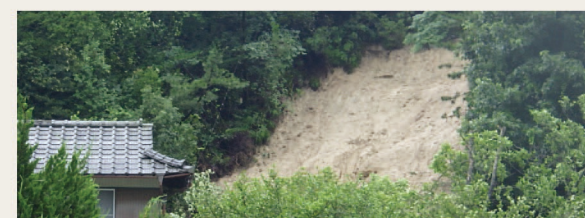
河川の流域や、かつて河川敷だった所は、豪雨によって洪水に見舞われる危険があります

平成30年(2018) 7月豪雨の土砂災害

7月5日から本州付近に停滞する梅雨前線が活発になり、九州から東北にかけて、広範囲で断続的に非常に激しい記録的豪雨となり、6日夕方から8日にかけて、11府県で大雨特別警報が発表されました。6月28日から7月8日までの降雨記録では、48時間降雨量は124地点、72時間降雨量では122地点で観測史上1位を更新しました。土砂災害発生件数は、1道2府29県2,581件に及び、土石流等791件、地すべり56件、がけ崩れ1,734件の甚大な被害となりました。

死者	237名
負傷者	432名
全半壊	6,767戸
半壊	11,243戸
一部損壊	3,991戸

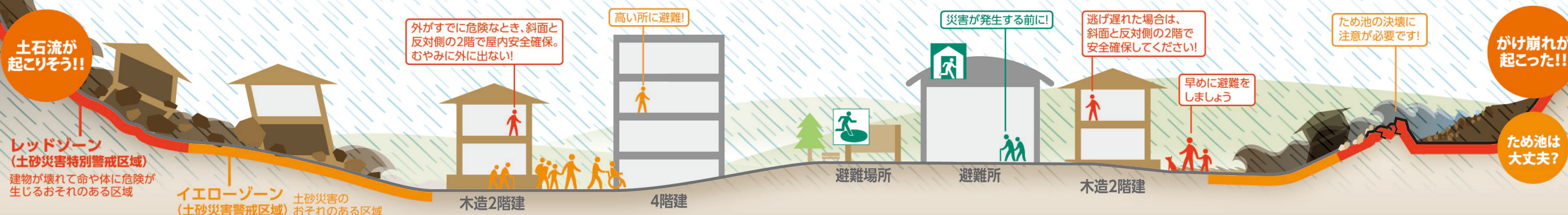
出典先／降雨記録：気象庁 平成30年7月13日発表
被災件数：内閣府 平成31年1月9日17:00時点集計



椿谷(まんのう町岸上) 平成30年7月7日

リスクマップで自分の居場所の危険を知ろう

P12～31



雨/土砂災害警戒情報に注意

土砂災害の多くは雨から起こります。1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら注意が必要です。土砂災害警戒情報は、土砂災害の危険度が高まった際、香川県と高松地方気象台が発表する避難に有効な情報です。早めの避難を行いましょう。

土砂災害警戒情報

20ミリ

逃げ方は、立退き避難が基本です

安全な場所まで立退き避難

レッド・イエローゾーンは崩れる前に早期の避難を！
※土砂災害警戒情報は避難判断の合図

直角に逃げましょう！

土石流はスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向とは、直角に逃げましょう。



日本に土砂災害が多いのは？ 日本列島の地形や地質・気象などの自然条件に大きな原因があります。

地形や地質

山地が多く平地が少ない・もろい地質・急流な川

気象などの自然条件

大雨/台風・集中豪雨・大雪・地震・火山の噴火など

主な前兆現象

土砂災害が起こる多くの場合、事前に危険と思われる変化が見られます。よく注意してください。

川がにごった

川がにごり、木の枝などが混ざりはじめた



水位が下がった

雨が降り続けているのに川の水位が下がった



亀裂が走った

山の木が傾いたり、斜面に亀裂が走った



石が落ちてきた

山の斜面から石が転がり落ちてきた



わき水が止まった

今まででかたことのないわき水が止まった



わき水が増えた

わき水の量が急に増えた



井戸水がにごった

普段澄んでいる沢や井戸の水がにごってきた



地鳴りがする

地鳴りの音が聞こえてきた

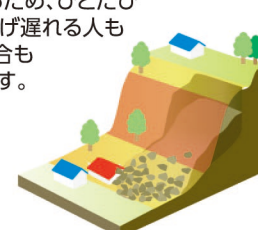


3つの土砂災害

発生のしくみや土砂の動き方から、大きく「がけ崩れ」「土石流」「地すべり」があります。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)

傾斜した土地が崩壊する自然現象。突然崩れ落ちるため、ひとたび人家を襲うと逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなっています。



土石流

山肌が崩壊して生じた土石などや、渓流の土石などが一体となって流下する自然現象。その流れの速さは、時速20～40kmで、一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

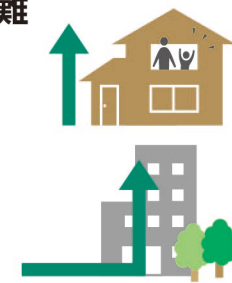
地面は何層もの地層が積み重なっていますが、大雨が降り続けると地下に水がしみこみ、水を通じにくい粘土層の上に地下水がたまりやすくなります。この地下水の力に持ち上げられて、粘土層を境に上の地面がゆっくりとずり落ちます。



屋内安全確保

土砂災害がすでに起こってしまい、逃げ遅れた場合は建物内の高い場所へ避難

建物の2階以上の斜面とは反対側の部屋など、屋内の少しでも安全な場所へ避難しましょう。特に土石流が想定される場所では、危険なエリアから離れるか、近くの丈夫な建物の上階に避難しましょう。大雨が上がっても少なくとも一日は油断せず注意が必要です。



知っていますか？

町では詳しい「土砂災害ハザードマップ」が整備されています。土砂災害警戒区域等において、土砂災害の発生原因となる自然現象の種類を明示し、円滑な警戒避難を確保する上で必要な事項を記載したものです。

